

大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京藝術大学
整理番号	T-2
事 業 名	Global Arts Crossing ～中東地域との戦略的芸術文化外交～

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	<p>本プログラムは、芸術文化力を活かしたフロンティア開拓や国際交流・外交の推進に向け、欧米やアジアだけでなく、独自の芸術文化を育んできたトルコ及びイスラエルの芸術系部門を有する大学との間で、学生交流や共同創作活動等を通じ、それぞれの地で形成された芸術を学び創作活動を活性化するとともに、芸術文化交流の分野で真にグローバルに活躍できる人材の育成を目指して社会実践型のグローバル人材育成プログラムを実施したものである。</p> <p>プログラム展開においては、日本と中東圏との相互理解のみならず、西欧、オーストラリア、東南アジアをも加えた多様性を基軸とした国境を越えた交流プログラムなど多彩な取組が実施された。特に、海外相手大学等との共同ワークショップの開催や国内外の国際ワークショップ・展示会への参加・出品は、貴学の特質を活かしたユニークな教育交流の実践であり、参加学生に対して貴重な機会を与えている。質の保証についても、実技の評価における外部の芸術家や学生を含めた講評会の実施、修学時間と評定を記した履修証明書の発行や、外部委員による外部評価の実施など、様々な工夫と努力がなされたことは評価できる。</p> <p>一方で、一時期の情勢の悪化の影響を受けたとはいえ、日本人学生の派遣実績が目標の半分にも達していないことは相互交流としては不十分であり、派遣先大学の質保証に対して十分な配慮を求めることが望まれる。目標達成に至らなかった原因を様々な側面から分析し、得られた結果に基づいてより積極的な改善措置を講じることが必要である。そして、本プログラムの自走化に向けた海外相手大学との交流活動を継続・発展させていくためにも、計画調書に記載されている単位互換やジョイントディグリー等、個々のプロジェクトを超えた制度的な仕組みの構築が必要であり、その実現に向けて引き続き努力が望まれる。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的なプログラム展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>